

# FF-36N・FF-36NT 工事説明書

## 工事店様へのお願い

この製品は  
●排気筒内径 → φ40、外径 → φ41  
●給気筒接続口外径 → φ40、内径 → φ39になっています。

使用する工事部品は、必ず本機の附属品及びトヨトミ  
純別売部品の給排気筒を使用してください。

設置工事の前に、この工事説明書をよくお読みのうえ正確に据付けてください。  
この工事前には、工事終了後に取扱説明書と一緒に必ずお客様にお渡しください。

\*本文中のイラストはFF-36Nにしてあります。

## 安全のために必ずお守りください

●ここに示した事項は、△警告、△注意に区分しています。

**△警告** この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

**△注意** この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●イラスト(まんが)の横にある○マークは「禁止」、●マークは「指示」、△マークは「注意」を表しています。

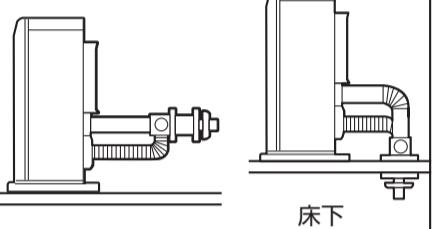
## △警告

★据付けや移設は、販売店  
または 据付業者  
がおこなってください。  
指示

お客様ご自身で据付けや移設を  
され、不備があると感電や  
火災の原因になります。

★屋内給排気及び床下給排気禁止

屋内または床下に排氣すると、  
排ガスが室内に漏れて危険  
です。必ず屋外に排氣してください。  
禁止



## △注意

★次の場所には据付けない。

火災や予想しない事故の原因になります。●温室、飼育室など人のいない場所。  
●付近に燃えやすいものがある場所。●水平でない場所、不安定な場所。  
●階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所。●不安定な物をのせた棚などの下。  
●防火対策をしていないマントルピース。●可燃性ガスの発生する場所またはある場所。  
●特殊な壁(内部に通気層があるものなど)を使用している場所。  
●高地(標高1500m以上)では使用しないでください。酸素濃度が薄いので不完全燃焼  
します。標高1000~1500mの場所では再調整が必要です。  
裏面の【高地仕様への変更のしかた】を参照して、調節してください。

## .....据付け方法

### 送油管の取付け (FF-36Nのみ)

- オイルタンクの送油バルブまたは、給油コックなどの油の出口と、ストーブの送油管に附属または別売のゴム製送油管を差し込み、附属品のホースバンド(小)で締め付けてください。  
また、ゴム製送油管は点検しやすいように配慮して取り付けてください。
- ゴム製送油管の接続部のホースバンド(小)は締め付け不足や締付けすぎに注意してください。
- 送油管の上には重量物がのったり、折れ曲がったり、空気たまりができるような形状にならないようにご配慮ください。
- 規定の送油管以外は使用しないでください。
- ゴム製送油管は、油タンクを屋外に設置する場合は使用しないでください。
- オイルタンクを屋外に設置する場合は、金属製送油管(外径φ8mm、銅管)を使用してください。



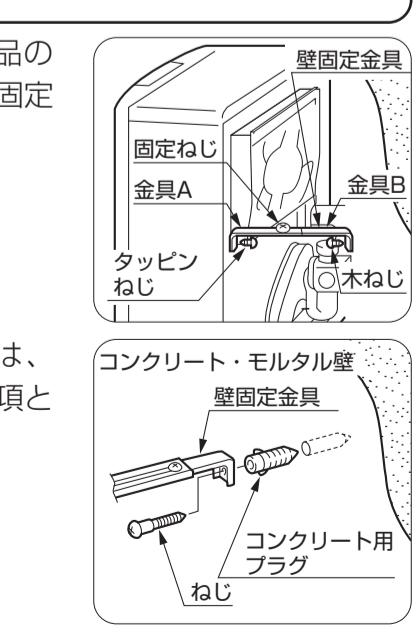
お  
願  
い

- 金属製送油管で配管する場合は、切断や加工時の切りくずや切り粉をきれいに取り除いてから配管してください。切りくずや切り粉が配管内に入りますと、ストーブの故障の原因になります。
- ゴム製送油管の取付けは、曲げ半径が小さかったりねじれたりするとゴム内部に応力が加わり短時間でヒビ割れなどが発生し油漏れの原因になります。曲げ半径は最低でもR100mm以上になるよう、またねじれのないよう設置してください。
- ゴム製送油管は紫外線に当たると劣化が早くなります。できるだけ日光の当たらない場所を選んでください。
- ゴム製送油管は時間とともに劣化しますので定期的に点検してください。  
2年で1度は新しい物に交換されることをおすすめします。

### ストーブの固定

ストーブの据付けが終りましたら、附属品の壁固定金具で本体を壁に固定してください。  
壁に固定できない場所での使用はおやめください。

- ①木または厚い合板の壁に固定する場合は、附属品の壁固定金具を固定し、木ねじを使用して壁に直接固定してください。



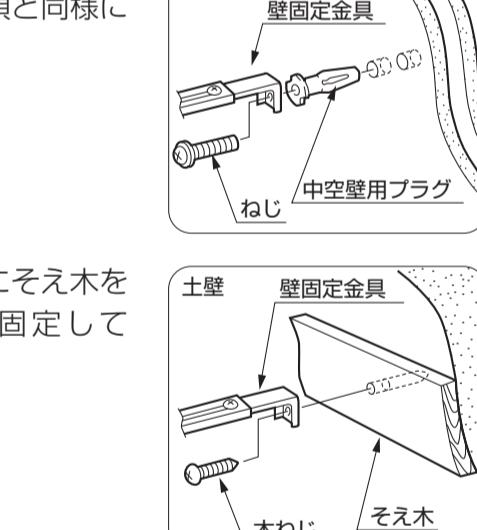
- ②モルタル、コンクリートの壁に固定する場合は、コンクリート用プラグを壁に打ち込んでから、①頂と同様に壁固定金具で固定してください。



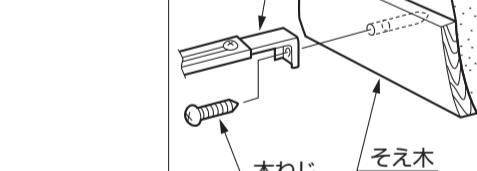
## .....据付け方法

### 給排気筒の取出し場所の選定

- ③石膏ボード、薄い合板など中空壁に固定する場合は、中空壁用プラグを壁に打ち込んでから、①頂と同様に壁固定金具で固定してください。



- ④土壁、しつこい壁などに固定する場合は、壁にそえ木をしてから、①頂と同様に壁固定金具で固定してください。



- 記録**
- 電源コードは傷付けたり、束ねたり、無理に曲げたりしないでください。また足でひっかけたり、重量物がのって破損しないようにご配慮ください。  
火災の原因になります。

- A C100V 電源を使用してください。100V以外の電源を使うと、電気部品が故障したり、発火することがあります。コンセントは、雨や水のかからない場所に設置してください。またコンセントが傷んだり差し込みがゆるいときは使用しないでください。感電・ショート・発火の原因になります。

●ゴム製送油管は時間とともに劣化しますので定期的に点検してください。

2 年に1度は新しい物に交換されることをおすすめします。

### 3 給排気筒の取付け

#### 3 給排気筒の取付け

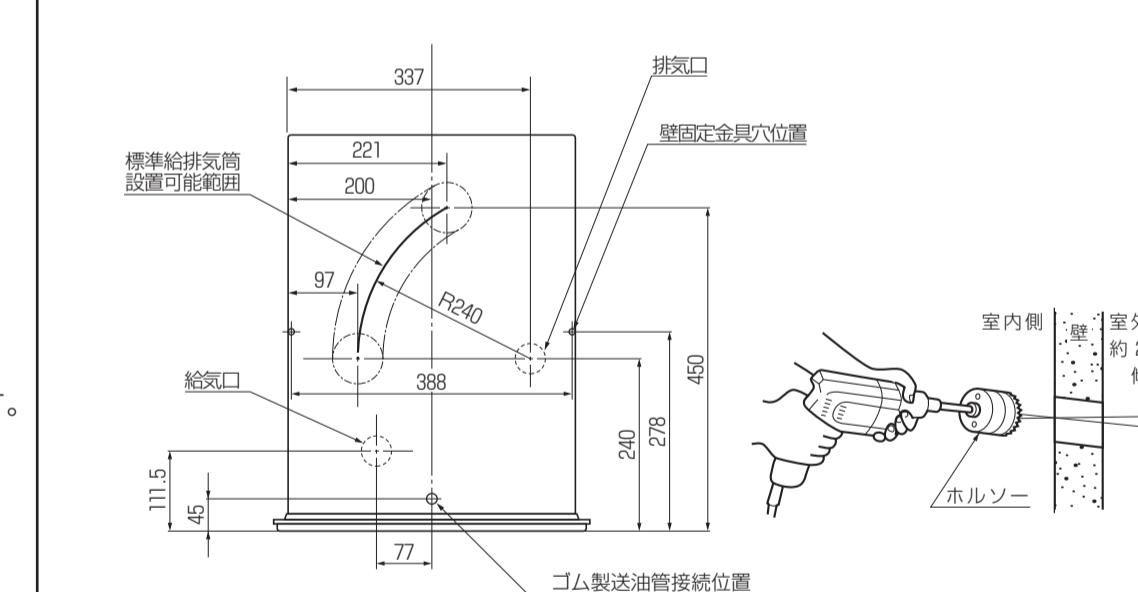
##### 給排気筒の取出し場所の選定

## .....標準給排気筒の取付け

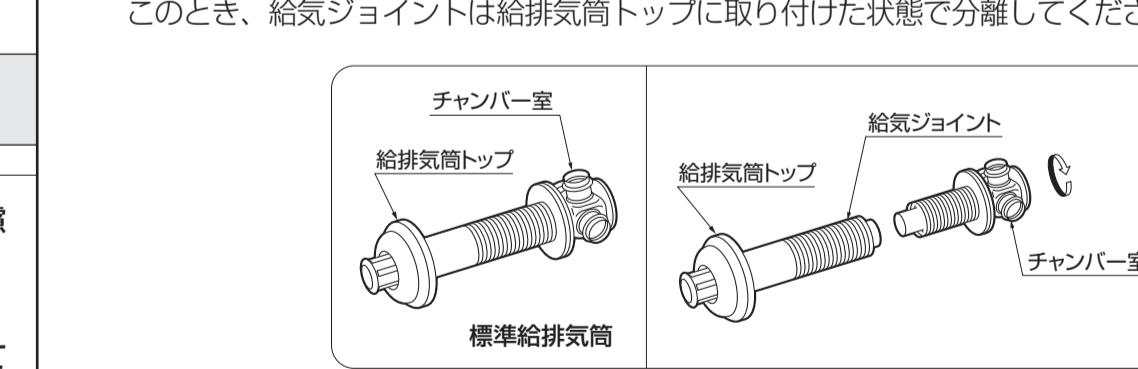
### .....標準給排気筒の取付け

- ③壁に給排気筒の穴(Φ70~Φ80)を開けてください。

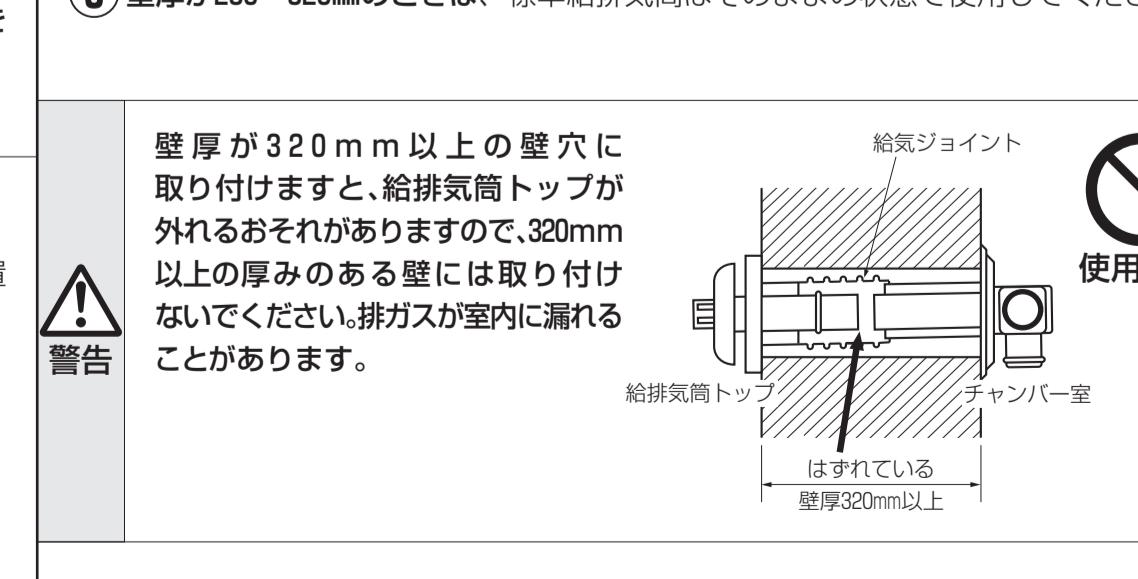
●室内側から室外側に向て約2°の傾斜で下向きに開けてください。



- ④標準給排気筒を、給排気筒トップとチャンバー室にねじって分離してください。  
このとき、給気ジョイントは給排気筒トップに取り付けた状態で分離してください。

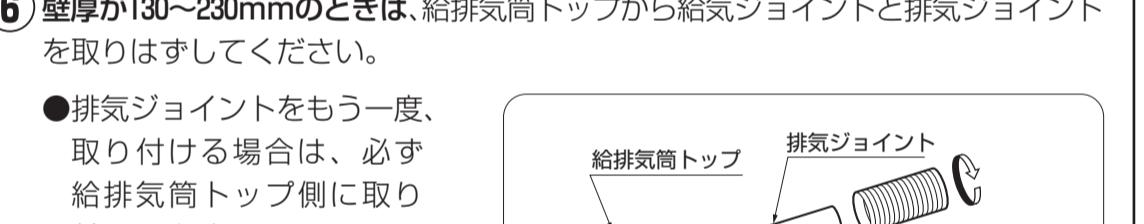


- ⑤壁厚が230~320mmのときは、標準給排気筒はそのままの状態で使用してください。

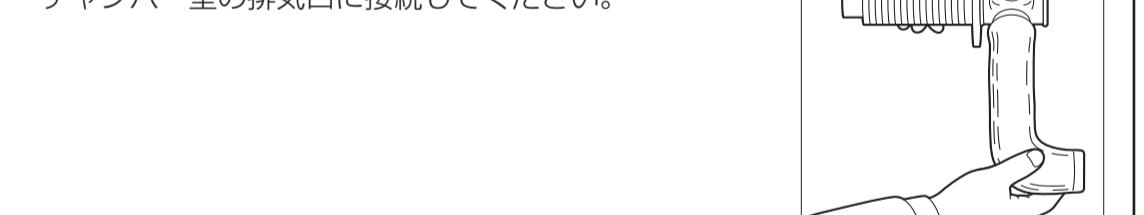


## .....標準給排気筒の取付け

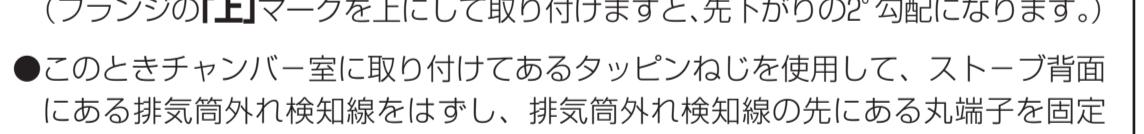
- ⑥壁厚が30~230mmのときは、給排気筒トップから給気ジョイントと排気ジョイントを取りはずしてください。



- ⑦排気用L形継手を右図のような位置にチャンバー室の排気口に接続してください。



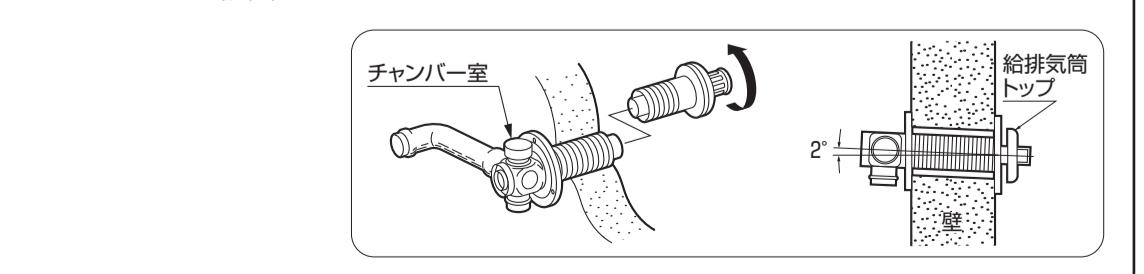
- ⑧チャンバー室の「上」マークを確認して室内から壁面に木ねじ等(3本)で固定してください。  
(フランジの「上」マークを上にして取り付けますと、先下がりのU字型になります。)



- このときチャンバー室に取り付けてあるタッピングねじを使用して、ストーブ背面にある排気筒外れ検知線をはずし、排気筒外れ検知線の先にある丸端子を固定します。

- 排気筒外れ検知線を接続しないと、ストーブは燃焼できません。

- 使用しないチャンバー室の給気口には給気口キャップをかぶせておいてください。

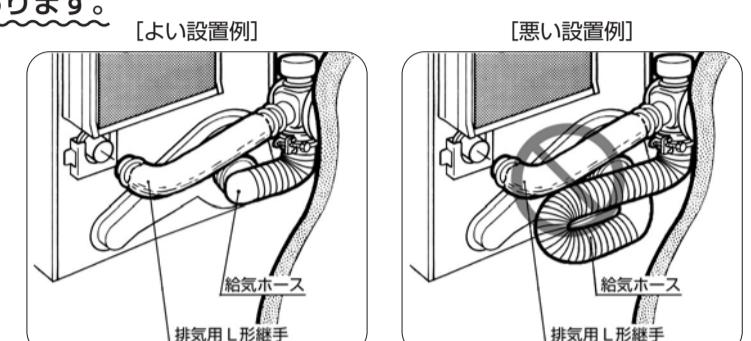


# FF-36N・FF-36NT 工事説明書

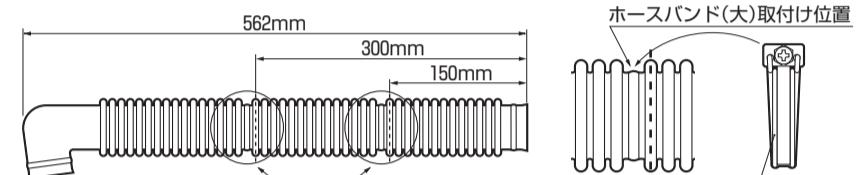
# 給排気筒取付け型紙

## 標準給排気筒の取付け

- ⑩ 給気ホースをチャンバー室の給気側とストーブ本体背面の給気口に取り付け、ホースバンド(大)で固定します。  
●排気用L形継手を断熱カバーでしっかりと覆ってください。  
●排気用L形継手が露出していないことを確認してください。  
●給気ホースは、排気用L形継手に接触しないように取り付けてください。  
熱で変形するおそれがあります。



- 給気ホース長さは、給排気筒トップの取付け位置によって、カッターナイフ、はさみなどを使用して下図の切断位置で、切って調節してください。切断箇所はホースバンド(大)より少し大きいため切断箇所をつぶすようにしてホースバンド(大)を取り付け位置に入れてください。

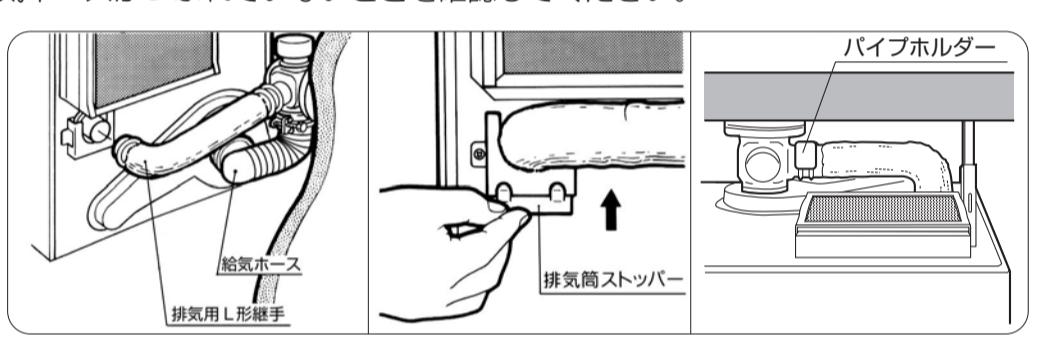


- ⑪ ストーブ本体を静かに移動させ、排気用L形継手をストーブの排気口にはめ、ストーブに附属している排気筒ストッパーで固定します。また、チャンバー室側もパイプホールダーを使用して固定します。

- 排気用L形継手を排気口にはめるとき、排気用L形継手のOリングに石けん水または水を塗ってからはじめてください。

- 給気ホースが排気用L形継手に接触していないことを確認してください。  
接触すると給気ホースが熱変形するおそれがあります。

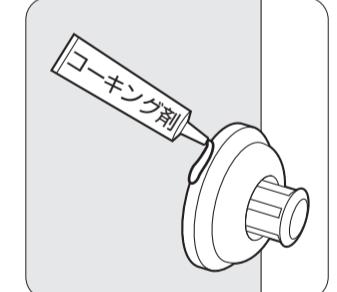
- 給気ホースがぶつれていないことを確認してください。



- ⑫ ⑨項で軽くねじ込んで仮固定した給排気筒トップを、もう一度強くねじ込んでしっかりと固定してください。

- 「上」マークを上側にすると約2°の傾斜がとれて、設置できます。

- ⑬ 給排気筒トップの法兰部全周などにコーキング剤(シリコン系)を塗布し、雨仕舞をしてください。

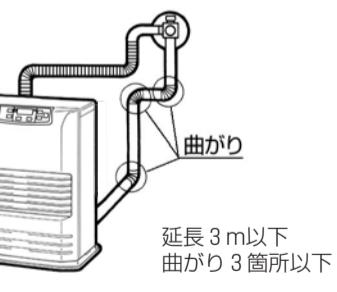


- 完全にコーキングしないと、雨水が室内や壁内に入ることがありますので、充分注意してください。

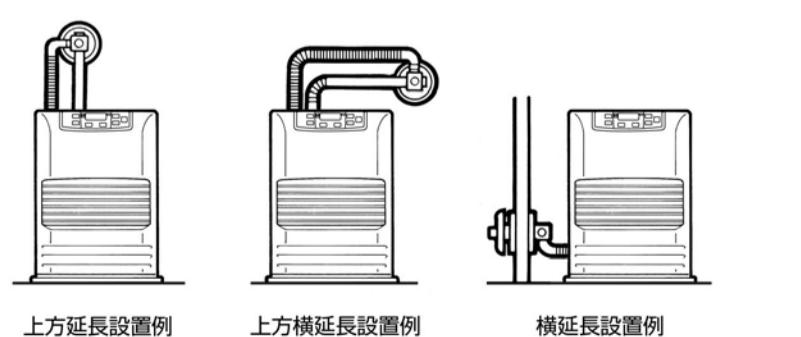
## 延長給排気工事の限界

- 延長工事部品は、必ずトヨミ正規別売部品FFP-68-4040(1m延長セット)、FFP-69-4040(2m延長セット)などを使用してください。

- 給排気筒の長さは3m以下、曲がりは3箇所以下にしてください。



- 標準給排気方式以外にもお部屋の条件によって排気筒と給気ホースを延長して取り付けることができます。  
ただし延長限界は3m以下で曲がり3箇所以下です。



## 延長給排気工事の限界

- やけど防止のため排気筒には、必ず断熱カバーを装着してください。  
●壁や給気ホースに排気筒が接触しないように、パイプ支え金具、壁などに固定してください。

- 集合煙突利用の禁止  
高層建築の集合煙突を利用しての給排気は、火災予防上危険ですから、絶対におこなわないでください。

## 給排気筒の再利用禁止

- 古い給排気筒は使用しないでください。必ず附属の給排気筒セットを使用してください。



使用禁止

## 4 試運転

- 試運転は、ご使用者と一緒に必ずおこなってください。  
●取扱説明書「15 据付け・移設について」の「試運転」に従って、運転準備、運転、消火の手順の試運転をおこなってください。

- ストーブの据付け工事が終りましたら、必ず試運転をおこない、使用者に運転方法はもちろんのこと、日常の点検・手入れの方法、定期点検、故障・異常時の処置方法、連絡先等をお教え願います。

- 同梱の「取扱説明書(保証書付き)」と共に工事終了後はこの「工事説明書」をお客様にお渡し願います。

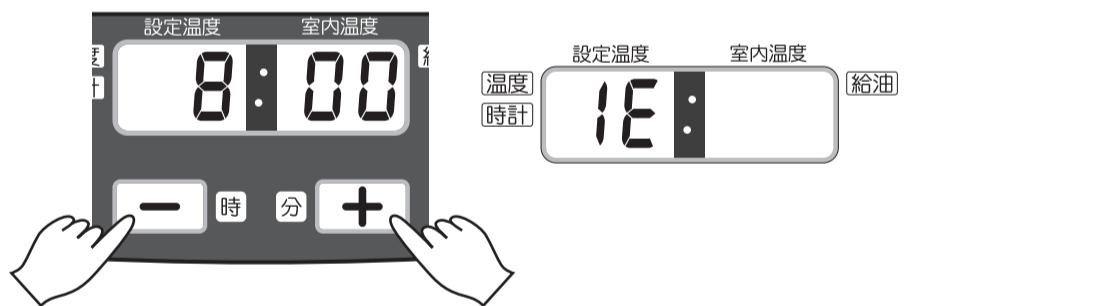
## 5 廃棄するときの注意

- ストーブを廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。  
リサイクルの支援となります。

## 高地仕様への変更のしかた

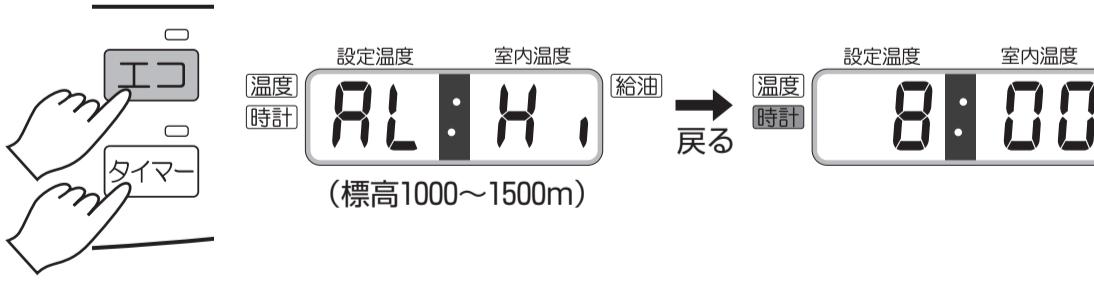
(標高1000~1500mの場所でご使用の場合)

- ① 運転停止中に「**-**」「**+**」ボタンを同時に3秒押します。  
デジタル表示部が「**1E**」表示に変わります。  
(室内温度が表示されていることもありますが問題ありません。)



- ② デジタル表示部が「**1E**」表示中にエコボタンとタイマーボタンを同時に3秒間押し続けます。  
デジタル表示部に「**AL Hi**」表示が3秒間点滅し、元の表示に戻ります。これで高地設定は完了です。

- 一度設定をすれば電源プラグを抜いたり、停電があった場合でも高地設定は保持されます。



- もし、高地設定を解除したいときは、①項の操作からやり直してください。デジタル表示部に「**AL Lo**」表示が3秒間点滅し、元の表示に戻れば、高地設定の解除は完了です。

